

エボラ出血熱と新興感染症に備える
(オーソモレキュラー栄養療法による)

予防と対策

新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) の発生源を巡る論争の記憶が新しい中、都内へのエボラ感染実験施設の移転によって、意図的か偶発的にエボラウイルスが拡散し、東京という世界有数の人口都市で「人工的なパンデミック」が発生するのではないか?という懸念が今、広がっています。この問題は日本国内にとどまらず全世界にとって重大な教訓とリスクを含んでいます。なぜこの問題は全世界にとって重要なのでしょうか?その予防や対策はどの様にすれば良いか?その答えを知り正しい知識で備えてみましょう。

対策

東京または他地域で最初のエボラ症例が確認された場合

【目的】免疫の迅速な活性化と地域社会への情報発信

- 信頼できる医師や独立した健康ネットワークを通じた緊急情報の普及
- 私たちの手に入りやすい、ビタミンC、ビタミンD、亜鉛、セレン、ビタミンB群、マグネシウムなどのサプリメントを速やかに摂取しましょう。
- 自宅で使用可能な予防的チェックリストやプロトコルの配布
- 過酸化水素 (H₂O₂) 吸入療法の導入 (トーマス・レビー医師、2021年提案)

私たちの使命は
正しい知識を国民に伝えることです

続きはこちら



オーソモレキュラー
医学会による
エボラの記事

国民全体の免疫力を高める

予防

「予防」は「治療」より優れているだけでなく、バイオ危機においては、現実的に唯一の防御手段です

発生前に準備する

普段の食事やサプリメントで日常的に備える

ビタミンD

5,000~10,000 IU/日 (血中25(OH)D濃度を50~100 ng/mLに保つ。日本人の90%以上は30 ng/mL未満である)

ビタミンC

3,000~10,000 mg/日 (リポソーム型が吸収効率に優れる)

亜鉛

25~50 mg/日 (銅 1~2 mgを併用)

セレン

200~400 µg/日 (日本人の食事からの平均摂取は約100 µg)

マグネシウム

400~1,000 mg/日 (グリシン酸塩またはクエン酸塩)

ビタミンB群

- B₁ (チアミン) : 100~300 mg/日
- B₃ (ナイアシン) : 500~2,000 mg/日
- B₆ (ピリドキシン) : 50~100 mg/日
- B₁₂ (コバラミン) : 1,000~5,000 µg/日

生活

ライフスタイル

- ・ 太陽光を毎日浴びる
- ・ 超加工食品の排除
- ・ 野外の活動を増やす
- ・ 十分な睡眠
- ・ 間欠的ファスティング

次のパンデミック

Disease X に備えましょう

自然発生にせよ、人為的であるにせよいつ起きても不思議ではありません。その解決策として今、私たちに必要な方法は「栄養療法」が唯一の鍵となるでしょう!

children are our Future

私たちの子どもは 私たちの未来です

私たちお医者さんで立ち上げた
国際ボランティア団体です。



『自由と健康を護る会』

Guardians for Health & Freedom

子どもたちを護るために立ち上がった
全国のボランティアさんが活動しています

ボランティアさん大募集

ご支援ご協力よろしくお願いします。

会員登録は
こちらから



<http://GHF-japan.Org>



@GHF_JP